

平成19年3月期中間決算発表 補足資料

平成18年11月8日  
日本ガイシ株式会社

□はH18/9修正発表値

□はH18/9修正発表値

	18年3月期中間		19年3月期中間		前年 同期比	18年3月期			19年3月期		
	実績	構成比	実績	構成比		実績	構成比	前期比	見通し	構成比	前期比
	億円	%	1,430 億円	%	%	億円	%	%	3,060 億円	%	%
<b>売上高合計</b>	<b>1,218</b>	<b>100</b>	<b>1,434</b>	<b>100</b>	<b>118</b>	<b>2,838</b>	<b>100</b>	<b>107</b>	<b>3,060</b>	<b>100</b>	<b>108</b>
<海外売上高合計>	<518>		<705>			<1,100>			<1,345>		
単独売上高計	870	100	978	100	112	2,059	100	103	2,165	100	105
(うち輸出計)	(286)		(381)		133	(579)		110	(710)		123
グループ会社 NET売上高計	348		456		131	779		118	895		115
<b>電力関連部門</b>	<b>325</b>	<b>27</b>	<b>330</b>	<b>329</b>	<b>23</b>	<b>679</b>	<b>24</b>	<b>110</b>	<b>700</b>	<b>700</b>	<b>23</b>
単独売上高	242	28	236	24	97	510	25	111	520	24	102
(うち輸出)	(95)		(92)		97	(178)		110	(180)		101
グループ会社 NET売上高	83		93		112	169		110	180		106
<b>営業利益 (%)</b>	<b>18</b>	<b>(5.6%)</b>	<b>20</b>	<b>24</b>	<b>134</b>	<b>19</b>	<b>(2.8%)</b>	<b>-</b>	<b>35</b>	<b>35</b>	<b>(5.0%)</b>
<b>セラミックス部門</b>	<b>452</b>	<b>37</b>	<b>625</b>	<b>628</b>	<b>44</b>	<b>958</b>	<b>34</b>	<b>114</b>	<b>1,185</b>	<b>1,185</b>	<b>39</b>
単独売上高	307	35	412	42	134	616	30	102	775	36	126
(うち輸出)	(113)		(177)		156	(226)		104	(335)		148
グループ会社 NET売上高	145		216		149	342		145	410		120
<b>営業利益 (%)</b>	<b>89</b>	<b>(19.7%)</b>	<b>155</b>	<b>149</b>	<b>167</b>	<b>177</b>	<b>(18.5%)</b>	<b>105</b>	<b>245</b>	<b>245</b>	<b>(20.7%)</b>
<b>エレクトロニクス部門</b>	<b>344</b>	<b>28</b>	<b>370</b>	<b>378</b>	<b>26</b>	<b>684</b>	<b>24</b>	<b>105</b>	<b>715</b>	<b>725</b>	<b>24</b>
単独売上高	232	27	240	25	103	447	22	109	445	21	99
(うち輸出)	(78)		(112)		143	(176)		119	(195)		111
グループ会社 NET売上高	111		138		124	237		98	280		118
<b>営業利益 (%)</b>	<b>59</b>	<b>(17.1%)</b>	<b>70</b>	<b>69</b>	<b>117</b>	<b>101</b>	<b>(14.8%)</b>	<b>150</b>	<b>115</b>	<b>115</b>	<b>(15.9%)</b>
<b>エンジニアリング部門</b>	<b>101</b>	<b>8</b>	<b>105</b>	<b>105</b>	<b>7</b>	<b>525</b>	<b>19</b>	<b>94</b>	<b>460</b>	<b>460</b>	<b>15</b>
単独売上高	88	10	90	9	102	486	24	92	425	20	87
(うち輸出)	(0)		(0)		-	(0)		-	(0)		-
グループ会社 NET売上高	13		15		119	39		130	35		89
<b>営業利益 (%)</b>	<b>-32</b>	<b>(-31.3%)</b>	<b>-25</b>	<b>-22</b>	<b>-</b>	<b>14</b>	<b>(2.8%)</b>	<b>50</b>	<b>15</b>	<b>15</b>	<b>(3.3%)</b>
セグメント間売上消去	-4		-6			-8			-10		
為替レート(円/\$)	107		116			111			113		
為替レート(円/ER)	136		143			137			139		
<b>営業利益</b>	<b>135</b>	<b>11.1</b>	<b>220</b>	<b>220</b>	<b>15.3</b>	<b>313</b>	<b>11.0</b>	<b>129</b>	<b>410</b>	<b>410</b>	<b>13.4</b>
単独営業利益	82	9.4	121	121	12.4	193	9.4	150	225	225	10.4
<b>経常利益</b>	<b>128</b>	<b>10.5</b>	<b>210</b>	<b>210</b>	<b>14.6</b>	<b>309</b>	<b>10.9</b>	<b>128</b>	<b>400</b>	<b>400</b>	<b>13.1</b>
単独経常利益	95	10.9	142	142	14.5	220	10.7	138	265	265	12.2
<b>当期純利益</b>	<b>70</b>	<b>5.7</b>	<b>120</b>	<b>120</b>	<b>8.4</b>	<b>165</b>	<b>5.8</b>	<b>138</b>	<b>240</b>	<b>240</b>	<b>7.8</b>
単独当期純利益	58	6.7	86	86	8.8	153	7.4	170	170	170	7.9
<b>研究開発費</b>	<b>51</b>	<b>4.2</b>	<b>54</b>	<b>54</b>	<b>3.8</b>	<b>113</b>	<b>4.0</b>	<b>93</b>	<b>125</b>	<b>125</b>	<b>4.1</b>
単独研究開発費	42	4.8	46	46	4.7	96	4.7	100	110	110	5.1
<b>設備投資(工事ベース)</b>	<b>188</b>	<b>15.4</b>	<b>151</b>	<b>151</b>	<b>10.5</b>	<b>412</b>	<b>14.5</b>	<b>132</b>	<b>320</b>	<b>320</b>	<b>10.5</b>
単独設備投資	43		56			124			125		
<b>減価償却費</b>	<b>89</b>	<b>7.3</b>	<b>110</b>	<b>110</b>	<b>7.7</b>	<b>190</b>	<b>6.7</b>	<b>111</b>	<b>240</b>	<b>240</b>	<b>7.8</b>
単独減価償却費	50		53			104			120		

平成19年3月期中間 連結業績の要点

- 概況 前年同期比増収、増益（中間期レベルで過去最高益を更新）  
SiC-DPF や PDP 用熱処理炉の増加によるセラミックス部門やエレクトロニクス部門の増加のほか、円安も寄与し、前年同期比増収。利益も、増収効果や生産性の改善などにより増益。
- 為替影響  
連結：売上 31 億円、営業利益 14 億円（前中間期 107 円→当中間期 116 円/\$、136→143 円/ER）  
単独：売上 17 億円、営業利益 11 億円（108→115 円/\$、136→144 円/ER）
- 部門別業績概況  
電力関連：前年同期比 4 億円の増収（円安影響 6 億円）。国内需要は横這いで推移するも、海外市場では、北米・中国向けを中心に送電分野の需要が増加したことなどから、前年同期比増収。利益も、売上増やコストダウンなどにより 6 億円の増益。（円安影響 2 億円）  
セラミックス：前年同期比 176 億円の大幅増収（円安影響 18 億円）。主力の自動車排ガス浄化用触媒担体は、物量増に加えて、円安も寄与し前年同期比増収。ディーゼル関連製品は、ディーゼル排ガス規制強化を見据えて SiC-DPF の需要が増加し大幅増収。産業用機器は前年同期並、燃焼装置は、PDP 用熱処理炉が増加し、前年同期比増収。利益も、売上増、生産性の改善により 60 億円の増益。（円安影響 8 億円）  
エレクトロニクス：前年同期比 34 億円の増収（円安影響 7 億円）。ベリリウム銅展伸材は、携帯電話・自動車向け需要が日本・アジア市場を中心に堅調に推移し、前年同期比増収。半導体製造装置用セラミックスも、半導体メーカーの設備投資の増加により増収。プリンター用機能部品は、客先の販売方針の変更により物量が減少し前年同期比減収。双信電機は無線 LAN 等の情報端末市場向けに積層誘電体フィルターの需要が増加し、前年同期比増収。利益も、売上増加や生産性向上などにより 10 億円の増益。（円安影響 5 億円）  
エンジニアリング：前年同期比 4 億円の増収。低レベル放射性廃棄物処理関連は前年同期比減収、主力の環境装置は、前年の売上高が下期に集中したことから、当中間期は前年同期比増収。利益も、売上増に伴い 9 億円の赤字減少。
- 連結範囲  
連結子会社数 前中間期 51 社→当中間期 54 社、持分法適用会社数 同 3 社→同 2 社

平成19年3月期 連結業績見通しの要点

- 概況 エンジニアリング部門が減収となるも、SiC-DPF の需要増により3期連続の増収。DPF 事業の黒字化・収益改善等により、営業利益・経常利益は4期連続、当期利益は3期連続の二桁増益を目指す。各利益共過去最高を更新。
- 部門別業績見通し  
電力関連：前期比増収。がいしは、海外市場において、北米・中国・中近東向け送電分野の需要が堅調に推移するも、国内は前期好調であった避雷装置が減少し前期比減収。NAS 電池は風力発電向けの需要が増加し、全体では前期比増収の見込み。利益は、NAS 電池の赤字縮小やがいしの収益改善などにより前期比増益の見込み。  
セラミックス：前期比大幅増収。自動車排ガス浄化用触媒担体は、物量増（個数ベース）はあるも担体の小型化及び薄壁化の鈍化による構成変化から横這いとなる見込み。ディーゼル関連製品は需要本格化から大幅増収。産業機器は微増収、燃焼装置は、PDP 熱処理炉の需要を取り込み前期比増収の見込み。利益は、ディーゼル関連製品の物量増効果や生産性向上により、前期比増益となる見込み。  
エレクトロニクス：前期比増収。プリンター用機能部品は、客先の状況変化により物量減少し、前期比減収。一方、ベリリウム銅展伸材は、携帯電話・自動車向けが堅調、銅価格反映の値上げ効果もあり、前期を上回る見込み。半導体製造装置用セラミックスは、300mm 製品を中心に上期の好調を持続し、前期比増収。双信電機も、情報通信端末市場向け積層誘電体フィルタを中心に上期の好調を維持し、前期比増収となる見込み。利益は、売上増、生産性向上などにより増益となる見込み。  
エンジニアリング：前期比減収。公共投資抑制が継続する中、競争激化により下水処理分野が落ち込み前期比減収。利益は、徹底したコストダウンやスリム化/人員削減に取り組むも、売上減少から前期並に止まる見込み。
- 為替影響 売上+12 億円、営業利益+6 億円  
下期為替前提 110 円/\$、135 円/ER  
（前期 111→当期 113 円/\$、137→139 円/ER）  
（単独：売上+5 億円、営業利益+5 億円 112→113 円/\$、138→139 円/ER）
- ROE 9.0%（前期比+2.3%）
- 配当見込み：中間 7 円、期末 7 円、年間 14 円 - 前期比 1 円増配  
（前期：中間 6 円、期末 7 円）
- 連結範囲 連結子会社数 前期 52 社→当期 54 社、持分法適用会社数 同 2 社（前期と同じ）